令和4年度第2回入札監視委員会の審議概要

開催日時 令和4年11月10日（木）午前9時30分から午前11時50分まで
場所 庁舎4階 委員会室2
出席委員氏名 田中 幸輔 委員長
 椎屋 恵美 委員
 奥村 高史 委員
 犬童 祐子 委員
 藤原 淳史 委員
審議対象期間 令和4年4月1日～令和4年9月30日
対象工事件数 85本
抽出審議案件 5本

質 問	回 答
<p>抽出審議工事 1 R2年災 高仁田地区頭首工外災害復旧工事</p> <p>（1）1回目も2回目も入札不調となっており、1回目に指名した業者と随意契約をしています。通常は2回目の指名業者との随意契約になるかと思いますが、受注した業者をどのように決定したのですか。</p> <p>（2）入札不調となった要因は何でしょうか。</p> <p>（3）当初この頭首工を施工した業者や何年くらい前に設置されているものかは分っていたのですか。</p> <p>（4）場所が遠隔地であったことが、入札不調の主な理由とのことですが、遠隔地になると人件費などが業者への負担が大きくなるということですか。</p>	<p>報告事項について 入札・契約の手続きの運用状況の報告について</p> <p>（事務局から入札・契約事務の経過について説明する。）</p> <p>（1）この案件は3回目まで入札しており、全ての指名業者へ確認をしましたが、受注業者だけが対応できるとのことでした。</p> <p>（2）主な原因は工事場所の問題です。市内からも遠く、ほぼ県境の山あいの農地であるため、事業者からは非常に工事に取りづらい場所だったと言われていました。</p> <p>（3）当時の資料も残っておらず、施工した業者は不明です。設置されてから数十年経過していると思われます。</p> <p>（4）業者の負担は大きくなります。作業時の機械の運搬、土砂の搬出などは距離によって積算し設計額に反映されますが、それ以外の経費は工事場所が遠くなるほど業者の負担になります。</p>

(5) 遠隔地であることが、工事費の積算には反映されないのですか。

(8) 1回目と2回目の入札でそれぞれ業者を選定する基準は。

(9) B等級の工事でA等級から業者を選定することはあるのですか。

抽出審議工事 2

原城配水池地下防空壕充填工事

(1) この工事はB等級の工事になるかと思いますが、今回選定されていません。選定されていない理由は。

(2) 工事の格付表は公表していますか。

(3) 工事内容に充填剤の補充とありますが、土のうなどを先に置いてから隙間を充填剤で埋めているのですか。

(4) 防空壕の広さはどのくらいですか。

(5) 資料の工事の概要から、この工事が「とび・土工・コンクリート工事」に該当するのではないかと思うのですが、施工した業者は「とび・土工・コンクリート工事」の建設業許可を持っているのですか。選定する時に許可を持っているか考慮してありますか。

(5) 僻地として見ていないので積算されていません。

(8) 工事の規模がB等級の工事になるので、まずはB等級の業者を指名します。

(9) はい。A等級からは工事現場の近隣の業者を優先して指名しています。現状では、どの業者も手持ち工事が多いため、なるべく多くの業者を指名するようにしています。

(事務局より入札・契約事務の経過について説明する。)

(1) 今回は土木一式工事となり、工事の規模から基本的にB等級の中から選定することになっていますが、特殊な工事となり、より施工管理等がしっかりしているA等級を中心に選定しています。また、格付けについて、B等級の工事は2,000万円未満、A等級は4,000万円未満となっており、B等級の工事でも指名ができるということで今回は主にA等級の業者を指名選定しました。

(2) 公表しています。

(3) 土のうは使っておらず、全て充填剤で埋めています。設計段階で延長や断面等を測り、当初の充填剤の量を算出しています。

(4) 高さは高い所で約2m、幅は最大の所で約4mあります。

(5) この工事は「土木一式工事」で選定しており、指名した業者の中には、「とび・土工・コンクリート工事」の建設業許可がない業者もいます。なお、今回の施工業者は「とび・土工・コンクリート工事」の許可を持っています。

抽出審議工事 3

人吉球磨能力開発センター等解体工事

(1) 契約変更の理由について。「アスベスト調査に不測の日数を要したため。」とありますが、当初の設計段階で分からなかったのですか。また、アスベスト調査後に設計額の変更はあったのですか。

(2) 指名理由について。「特定建設業許可」を持っている業者を選定していますが、元請だけでは対応できない場合、下請に出す可能性も考慮しているということですか。

(3) 契約時もしくは契約後に下請に入っている業者の報告があるのですか。

(4) 下請金額の上限額や割合などは決まりがあるのですか。

(5) 解体された物件について。設計の委託業者がわかれているのはなぜですか。

抽出審議工事 4

市庁舎別館改修建築工事

(1) 建物は築何年くらい経過していますか。改修してどれくらい維持できるのですか。

(事務局より入札・契約事務の経過について説明する。)

(1) 解体した建物には2事業所が入っていましたが、設計段階では建物を使用していたので、内部の壁を剥ぎ取って調査することができませんでした。

調査後にアスベストが出た場合、処理等にかかる費用については設計変更を考えていましたが、調査の結果、アスベストは含まれていないことが分かったため、工期だけの変更となりました。

(2) はい。下請に出すことも考慮して選定しています。

(3) 下請報告書を提出することになっています。

(4) 割合や金額的な基準はありませんが、一括下請負の状態にならないように、元請が施工管理をするようになっています。提出された下請報告書などで確認しています。

(5) 解体後に災害公営住宅の建設に移らなければならないため、少しでも早く解体を完了させる必要がありました。そのため、設計も1つの業者に委託すると委託期間が長くなってしまうことから、西側と東側の建物に分けて発注を行い、委託期間を短縮しました。

(事務局より入札・契約事務の経過について説明する。)

(1) 昭和49年から50年にかけて新築された建物です。鉄筋コンクリート造なので一般的な耐用年数は75年くらいと言われて

<p>(2) 設備工事は建築工事とは別に発注するのですか。</p> <p>(3) 工事は同時進行しているのですか。</p> <p>(4) 落札価格について。この入札では他の工事と比べると次点との入札価格に差が生じているように思う。思いあたる要因はありますか。</p>	<p>います。躯体自体の利用はもうしばらくはできると考えています。ただし、設備の更新は必要となるので、空調関連や電気設備の工事も併せて実施します。</p> <p>(2) はい。機械設備が換気空調と給排水の工事、電気設備は照明やコンセント・スイッチなどの工事を別で発注しています。今回設備関係工事を併せて実施することで、少なくとも20～30年は利用が可能になるのではないかと捉えています。</p> <p>(3) はい。</p> <p>(4) 入札金額の差が出るのは企業努力の部分かと考えられます。予定価格を事前公表しているので、業者が検討・積算をして、この価格であれば適正な工事ができるというところで入札されていると思われま。</p>
<p>抽出審議工事5 東西コミュニティセンター災害復旧建築工事</p> <p>(1) 資料の発注一覧表によると、東西コミュニティセンターの工事は建築工事、機械設備工事、電気設備工事に分けて発注しているようですが、設計についても別々に発注しているのですか。</p> <p>(2) 工事は分けて発注したほうが良いのですか。一括で発注した場合とどのような違いがあるのですか。</p> <p>(3) (資料の図面から) GHP嵩上げ台と</p>	<p>(事務局より入札・契約事務の経過について説明する。)</p> <p>(1) 設計業務委託については建築設計事務所1社に一括で委託しています。</p> <p>(2) 設計に関しては、専門の知識を持った設計事務所であれば、電気・機械等の設備設計を建物に合わせて行うので、分けて発注するよりも一体的に設計したほうがスムーズに設計を進められます。</p> <p>工事は一括で発注するケースもありますが、人吉市内では発注する工事件数も少ないため、地元業者の育成も兼ねて専門工事は専門の業者に発注して受注の機会を与えるという方針で発注するようにしています。</p> <p>(3) ガスヒートポンプの略で空調の室外機</p>

<p>はどういったものですか。</p> <p>(4) もう少し嵩上げしたほうが良いのでは と思うのですが。</p> <p>(5) 今後、水害が起こる可能性もありますが、 浸水対策として発電機室などは困ったり しているのですか。</p>	<p>です。通常の電気を動力とする室外機ではなく、動力にプロパンガスを使用している空調機です。市の施設では東西コミセンのみ使用しています。災害前に設置していた場所から撤去して移設します。</p> <p>(4) 災害復旧工事は査定を受けて予算を認めてもらっています。水害での浸水範囲が床上1.4mで、今回は2.1m嵩上げをしますが、これ以上嵩上げすると災害査定時に過剰設計と捉えられるので、実際浸水した範囲よりも50～60cmの高さまで嵩上げするというので今回は設計しています。</p> <p>(5) 先ほどの説明のとおり室外機は嵩上げします。発電機室はGHP嵩上げの台の隣に設置しますが、発電機は屋内消火栓用の消火ポンプを作動させるためのものです。消火ポンプは嵩上げしたほうが良いのですが、消火ポンプを嵩上げすると地下に水槽があるため嵩上げた分水圧が足りなくなります。そのため、消火ポンプの能力を上げなくてはならないのですが、消火ポンプの能力を上げる作業が災害復旧の査定には通らないので、消火ポンプは同等の能力のものを復旧して、コンクリートの壁と鉄製の止水ドアを設けて浸水対策をしています。</p>
---	---